2022.4.28 第４号

森田　博

6年アルミ缶割りばし燃焼実験
からの～集気びんろうそく燃焼実験
結果と考察の書き方

割りばしの燃え方から学ぶ集気びんのろうそく実験

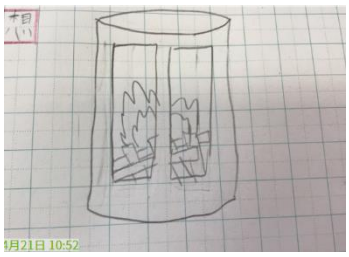
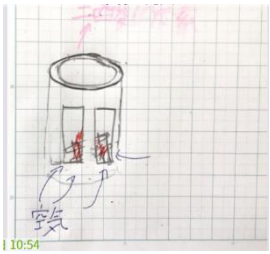
アルミ缶の穴を工夫して開け、中に入れた6本の割りばしがよく燃える方法を考えました。実際には、小さな穴を下の方や、全体に開けたとしても、あまり燃えませんでした。がばっと大きな穴を下の方に開けると、空気が入ってよく燃えました。（※この実験も啓林館の導入にちょこっと載ってあるだけです。）

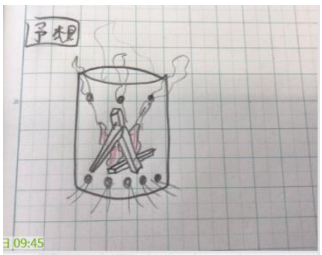
結果→アルミ缶の下に大きく穴を開けると、割りばしは大きな火を出してよく燃えた。過去形

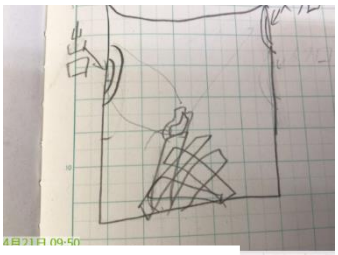
考察→大きな穴を開けるとよく燃える　×　これは結果と混在しています。

大きな穴から空気が入ってよく燃えたと考える。
空気の出入りがあってよく燃えたと考える。
新しい空気が穴から入ってくるのでよく燃えたと考える。
やはりここでは、「空気」がキーになってきます!!

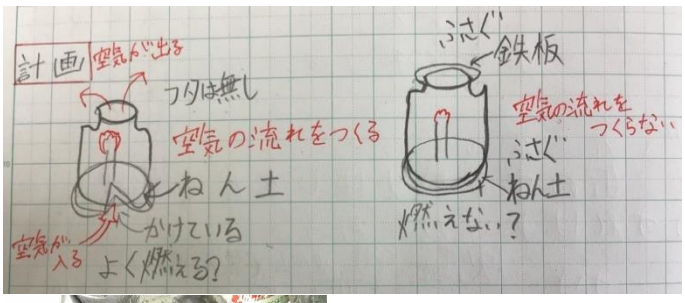
児童が予想したもの

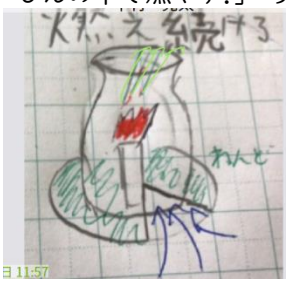
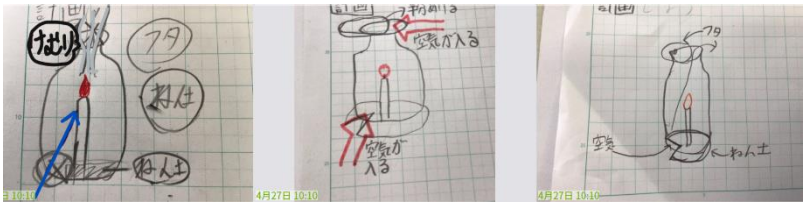




本当に穴から空気が入ったり出たりしながら燃えたのか？本当に空気の通り道があると燃えやすいのか？実験結果をもっと明確に、全員が同じ条件で燃える様子を調べるにはどうしたらいい？と投げかけ、子どもたちの言葉から実験方法を考え、計画しました。「大きな火を出してよく燃える」は一瞬ですが、今度は、長く燃え続けることを条件にレベルアップです。実験にも熱が入ります!燃やす実験だけに!!



「びんの中で燃やす!」「ろうそくにしたらいい!」など出ました!!



じゃがいも袋栽培
芽がでたよ～!!
ひとまず安心…